

家庭と

学校と つなぐ

地域を

城西地区青少協だより

き ず な

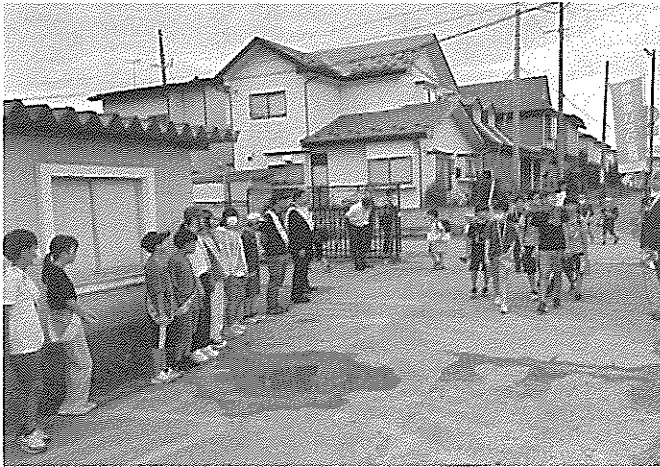
(題字は山内武徳前会長)

No.23

発行日
令和7年3月12日

編集・発行
城西地区青少年
育成推進協議会

地域総ぐるみ朝のあいさつ運動



会津若松市長・県議会議員・市議会議員・城西交番・城西小PTA
城西小朝ボラ隊のみなさん（城西小にて2024.8.27）

青少協は、あいさつ運動等の地道な活動が主流の団体です。今後
も継続して行くにあたり学校、保護者の方の協力と連携がとても重要だと考えております。引き続き
お力添えの程よろしくお願い申し上げます。

昨年、七月に四中で実施した「あいさつ運動」での事です。あいさつ運動終了時に生徒会の方々から本日は「ありがとうございます」と一列に並び御礼のあいさつがありました。二十年以上あいさつ運動に関わっていますが初めての出来事だったので大変感動しました。そして、城西小・小金井小・四中への授業参観に出席させていただいたところ、三校とも落ちついてのびのびと授業を受けている様子を見る事が出来ました。これもひとえに三校の校長先生を始めとする先生方や保護者の方々の御指導の賜物です。



城西地区青少年
育成推進協議会
会長 佐藤 等

うれしかった出来事

三者の協力を思う



前第四中学校 P T A
会 長 讓 矢 尚 武

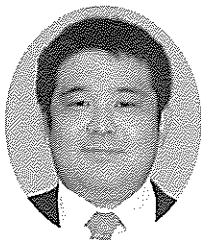
昨年度まで若松四中の P T A 会長を務めておりました讓矢です。

娘の小学校入学を機に娘との時間を大切にしたいとの思いから P T A 活動にも出来る限り参加していたことがきっかけとなり城西小学校で二年間、四中では三年間と P T A 会長を務めることとなりました。その五年間の任期は、ちょうどコロナ感染予防対策期間と重なり活動の中止や変更、行事の縮小、延期などの対応に追われ正に五里霧中の状態でした。その様な中でも子供たちの充実した学校生活を維持するために様々な工夫をしてこられた教職員の皆様や子供たちの事を思い様々な意見やアイデアを出し合いお手伝い下さる保

護者の皆様、それをご理解、ご支援いただいた地域の皆様に助けられ活動を続けることが出来ました。皆様のご理解とご協力で感謝申し上げます。

今後も子供たちを中心に教職員、保護者、地域の三者が協力しながら学校を支える城西地区であることを望むとともに私自身も青少年協を通してお手伝いできればと思っておりますので宜しくお願い致します。

城西地区青少年健全育成協議会の活動について



城西小学校 P T A
会 長 明 田 圭 右

日頃は城西地区青少年に対して地域の皆様の見守りのおかげで、学校に元気よく通えることに感謝いたし

ます。私は城西小学校の P T A 会長の明田圭右です。

城西地区青少年健全育成協議会の主な活動は「あいさつ運動」の推進だと思います。私も何回か城西小学校、第四中学校であいさつ運動に参加させていただきました。あいさつを返してくれる子ども、先にあいさつしてくれる子ども、あいさつが返ってこない子どもと様々です。あいさつは大人になっても必要不可欠なコミュニケーションの一つだと思います。こちらから声をかけることを続けることが「あいさつ運動」をとおして重要なことであると感じます。

あいさつで印象深かったのは、今年度の入学式です。祝辞を述べた際に返ってきた新一年生のあいさつは大きく元気が良く気持ちのいいものでした。相手の気持ちもいいもののできるあいさつをしていける子どもたちの育成に今後も協力していけたらと思います。

「あいづっこ宣言推進キャンペーン」の実施

あいづっこ宣言推進キャンペーンの一環として、ドン・キホーテに来客する皆様へ、ティッシュ及びチラシを配布する。

実施日時 令和6年10月31日(木) 17:00～17:30

場 所 MEGAドン・キホーテUNY会津若松店中央出入口

参加者 城西地区青少年育成推進協議会
 第四中・城西小・小金井小(3校校長及び各PTA本部役員)
 第四中学校生徒



城西地区の歩み(六)

二、町名の由来(二)

蒲生氏郷の町割り当時の河原町(現川原町)は、湯川の東にあつて南北に走る通りであつたが、寛永八年(一六三一)十月の大洪水によつて人家ごとごとく流亡したため、現在の一面に町名もそのまま移された。

石塚(観音)は、天応元年(七八一)、陸奥掾石川浄足(むつじょういしかわきよたり)は「伊治公皆麻呂(いじのきみのあざまろ)の反乱」を避け宮城郡多賀城より会津に來た。墓料牛ヶ墓、当時の堂家というところに潜伏、後この地で死亡。その子孫は三家に分かれ堂家、石部、石塚を名乗った。三浦氏(後に蘆名氏)の時まで勢力を持つており、この地に石塚氏の館があつたところから、石塚の地名が生まれた。



昔南山より材木を伐り、鶴沼川(阿賀川)に流して商売をしていた商人達は、初めは米代の西に住んでいたが、慶長十四年(一六〇九)この地に移って材木町と称した。住吉神社の北側にある若松測候所は、寛政四年(一七九二)会津藩が財政立て直し策の一つとして、藩営の酒「清見川」を醸造したところである。材木町西裏の芋莖新田が材木町二丁目、日本人女性初のアメリカ移民「おけい」の住んでいたところである。会津寮分寮入口には、昭和四十年代頃まで門が立っていた。

鈴懸町はスズカケノキ、プラタナスの木があつたため名付けたという。

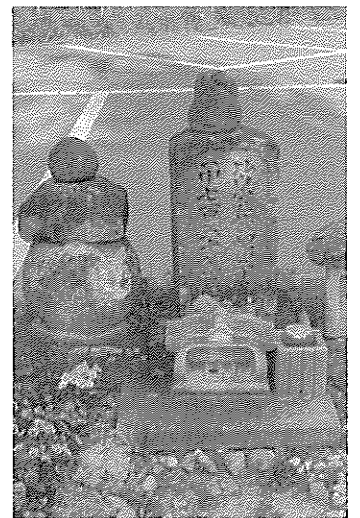
居高町の町名由来は不明だが、もとは東の方湯川の左岸にあつたのを、慶長(一五九六〜一六一五)頃に材木町の末に移し、その後再び移したという。平石弁蔵著「会津戊辰戦争」に「ヘンリー・スネルが「居高町に異人館設置相成り住居す」と記されている。

神指町大字南四合字幕内の町名の由来は、蘆名直盛が鎌倉より会津に下向した時、東西に館を築き南北に幕を張り住したのが村名の起因となった。幕内は度々水難にあつたため寛文十年(一六七〇)現在地に移った。「会津農書」を執筆した当村肝煎(きもいり)佐瀬与次右衛門の「会津幕之内誌」によると、移転前の幕内は現在の太川の中州あたりにあつたという。村全体が畑作の研究に熱心で作

物とともに各種作物の種子なども販売した。幕内の一部が幕内東町、幕内南町、住吉町は住吉神社、城西町は城西小学校からそれぞれ町名とした。応湖川の西側にある太郎兵衛新田は日吉町となった。神指町大字南四合字柳原は、低地で水に恵まれて柳の木が多かつたので、こうした自然環境がそのまま村名となった。柳原の一部が御旗町となった。

深川の町名の由来は、蘆名直盛が二日町(北会津町)から太川を渡られた川がたいそう深かつたのでその名が付いた。そして直盛が鎌倉から多くの鍛冶職人を連れて来てこの地に住ませたことから鍛冶屋敷と呼ばれるようになった。

対馬館は、この地に住んでいた松本対馬某の館があつたことに由来する。宝徳三年(一四五二)古川の左岸に松本右馬允が築いた允殿館跡と国道二二一号が古川を渡る所を昔から馬橋といい、それぞれの文字を取って館馬町とした。館脇町は対馬館の西脇に位置することが由来である。日吉丑淵は昔、丑淵沼という二メートル余りの深い沼があり、沼跡に拓かれた村なのでこの名がついた。門田町大字日吉の一部が桜町となる。鈴懸は、鈴懸と御旗町の一字ずつを取った。(「会津若松市史」「町名・地名の由来」「郷土歴史大事典(福島県の地名)」より抜粋)



三、名所旧跡、伝説のある町

城西地区には、大町札の辻(大町四つ角)から七日町、桂林寺、赤井町、融通寺町(本町)、川原町、材木町を通り、飯寺本光寺の前を進み阿賀川を超え上米塚、関山、大内から下野(現栃木県)への「下野街道」、元和元年に銀山(柳津町軽井沢)が発見され大町札の辻から融通寺、新横町、柳原から鍛冶屋敷を経て会津美里町、軽井沢までを「銀山街道」と呼ばれ、二つの街道が通っていた。それぞれの街道筋には、会津三庭園「攬勝亭」(現在は宅地化)、「可月亭」がある。柳原の菅原神社の東に細長い沼があつた。皆鶴姫が源義経の子帽子丸を抱いてこの地に来たが行方が分からず悲観して沼に身を投げ帽子丸は命を落してしまったという伝説が残っている。この沼を帽子沼と名付けたが今はない。しかし「皆鶴姫帽子丸、吊七百五十年忌」と刻まれている墓が今も慎ましく建っている。城西地区は至る所に名所旧跡が今も残っています、探してみたいかがでしょう。(完)